

2 年次選択科目 病理診断科臨床研修プログラム

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

1 か月～6 か月の範囲で調整可能であるが、原則として1 か月以上とする。

3. 指導体制

指導責任者： 今 井 康 雄 教授(部長)

主任指導医： 中 里 宜 正

4. 研修内容

- 1) 病理検査室 指導医の補助医として、生検材料、手術材料の病理診断、細胞診を行い、幅広い症例を経験しながら病理検体の取り扱い、診断法などを習得する。術中迅速診断ではディスカッション顕微鏡で指導医と同時観察を行い、術中迅速の実際について体験する。
- 2) 剖 検 室 指導医の監督下で病理解剖を行う。一症例について責任を持って剖検所見をまとめ、報告書を作成する。
- 3) カンファレンス等 CPC、各種カンファレンス、予演会に参加する。

5. 研修目標

基本的知識	検体の取り扱い方について理解する
	組織標本の作製法について理解する
	細胞標本の作製法について理解する
	病理解剖の手技について理解する
	分子病理学の臨床的応用について理解する

基本的診断・検査法	病理解剖例を対象とした CPC(臨床病理検討会)に参加し、レポートの作成を習得する
	外科的切除標本の肉眼観察および切り出し法について理解する
	外科病理組織標本を観察し、診断結果を理解する
	術中迅速検査に参加し、診断結果を理解する
	生検組織標本を観察し、診断結果を理解する
	病理検査報告書の作成法を習得する
	細胞診の種類(穿刺細胞診、擦過細胞診、喀痰細胞診など)や、検査結果について理解する

6. 経験が望まれる疾患

消化器疾患	耳鼻咽喉科疾患
腎・泌尿器疾患	感染症
生殖器疾患	血液・造血器疾患
乳腺疾患	皮膚・運動器疾患
循環器疾患	内分泌疾患
呼吸器疾患	脳・神経疾患，その他

7. 研修の特徴

- 1) 年間組織診断 12,000 件以上、細胞診 10,000 件以上、剖検 40 件以上を行っている。全科の症例を検討することが可能である。
- 2) 病理専門医、細胞診指導医が研修医の指導にあたる。
- 3) 剖検症例について定期的に CPC を行っている。
- 4) 臨床医立ち会いのもとで切り出しを行うマクロコントロールを必要に応じて行っている。
- 5) 免疫組織化学、電子顕微鏡、遺伝子解析を含む症例の検討を随時行っている。
- 6) 余力があれば研究・研究テーマは自由である。臨床のみならず実験病理に関連した研究材料も多数ある。各種研究機器も備わっており、優秀な研究員の人材も充実している。

8. スケジュール

解剖、解剖検体切り出し、手術検体切り出し、鏡検、症例検討等は、責任指導医および解剖担当医のスケジュールに合わせて随時行う。症例検討会、ミニレクチャー、CPC 等が行われている。